

小郡市内文化遺産再発見報告書

第1集

—福岡県小郡市小郡校区の文化遺産—



小郡市内文化遺産再発見報告書

第1集

—福岡県小郡市小郡校区の文化遺産—

2013

小郡市教育委員会

序 文

小郡市は遺跡が多く、歴史が豊かなことで有名です。これまでにニュータウン開発や工業団地造成、さらには道路交通網整備などに伴って数多くの大規模発掘調査が実施され、その成果が全国の注目の的になることも一度や二度ではありませんでした。昭和60年に開館した埋蔵文化財調査センターは市内埋蔵文化財の発掘調査や研究の中心として多くの事業を行ってきましたが、平成17年に増築され、現在は「古代体験館おごおり」として古代体験講座や各種講演会など幅広い事業を実施しています。

大規模な開発が落ちていた近年、私たちが注目しているのは、今残すべき様々な文化や伝統です。平成21年には伝承調査事業がスタートし、これまでに市内外の多くの方々からの聞き取り調査を行いました。平成24年度には伝承等文化資源調査活用事業として新たに活用の視点を取り入れ、事業を発展させています。また、市指定建造物松崎宿油屋は、平成22年度より市内古建築整備事業として保存整備事業を始めました。平成24年度には「中油屋」の解体調査を行い、平成25年度以降に江戸時代の姿に復元する予定です。

このように、文化財を取り巻く状況が刻一刻と変化する中、小郡市教育委員会文化財課では平成23年度に「第2次小郡市文化財行政基本構想」をまとめました。これは、平成15年度の「小郡市文化財行政基本構想」に続くもので、今後の文化財行政のあるべき姿を描いています。この構想の理念は、『ふるさとの歴史と文化を活かしたまちづくりを目指して』です。これから文化財行政に必要なのは、市民とともに足元の文化財の価値を再認識し、地域で文化財を守り伝えて行くつながりを作り上げることです。そして今回、その第一歩として「小郡市内文化遺産再発見事業」をスタートさせました。この事業はまだ端緒についたばかりですが、実際に地域の道を一本一本辿り、住民の方々に話を伺うことで、各地域の持つ様々な特徴が見えてきました。この成果がこれからまちづくりに結び付くことになれば、これ以上の喜びはありません。

最後になりましたが、当事業にご協力くださった地元区長のみなさま、そして様々なお話しを聞かせて下さった住民のみなさまに心より謝意を申し上げ、序文といたします。

平成25年3月31日

小郡市教育委員会
教育長 清 武輝

例 言

1. 本書は、平成24年度福岡県緊急雇用創出事業（震災等緊急雇用対応事業）に伴って、小郡市教育委員会が実施した市内小郡校区の文化遺産悉皆調査の記録である。
2. 調査は杉本岳史が担当し、井上千代美、岡藤成子、時里久美子、平峰正満、山下順平、宮崎美穂子とともに現地踏査、調査カードの作成、報告書の制作等を実施した。
3. 掲載した文化遺産の写真撮影は、一部を除き、今回の調査で撮影したものである。
4. 今回の調査に関する各資料は、小郡市埋蔵文化財調査センターにて管理・保管している。
5. 本書のうち、第5章（3）の掲載資料の選別及び一部の執筆を井上、岡藤、時里、平峰、山下が行い、報告書のデザインは宮崎が、その他の執筆及び編集は杉本が担当した。

目 次

第1章 事業の目的	1
第2章 小郡市文化財行政基本構想とは	2
第3章 事業に至る経過と組織	3
(1) 事業に至る経過	3
(2) 事業の経過	3
(3) 関係組織	3
第4章 調査の方法と内容	4
第5章 小郡校区の文化遺産	7
(1) 地理的環境	7
(2) 歴史的環境	7
(3) 文化遺産の内容	10
①埋蔵文化財	16
②まつり	18
③寺社	20
④交通	27
⑤信仰	28
⑥記念碑	32
⑦道と水路	33
⑧その他	38
⑨風景	39
(4) まとめ	40



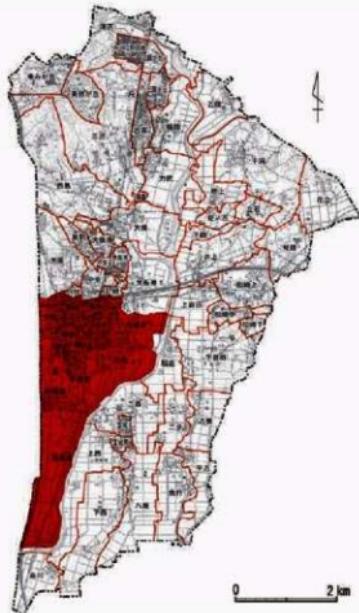
第1章 事業の目的

文化遺産とは、「前代から現代に伝わってきた、また、将来継承されるべき文化・文化財」(『大辞林』1995)のことです。この遺産という言葉は、近年世界遺産の名前で広く知られるようになりました。文化遺産の中には、有形・無形さまざまなものがありますが、日本では文化財保護法の下で保護が図られています。あらゆる文化遺産は、人類共通の財産として適切な処置で保護し、後世に継承すべき存在であるとともに、市民生活を支える柱の一つとして積極的に活用する必要があります。

小郡市教育委員会では、平成24年度から「小郡市内文化遺産再発見事業」を開始しました。これは、今後住民と行政の協働によって進めるまちづくりに、地域の“たから”を活かしたいという考えから生まれてきた事業です。自分たちの足元には何があるのか、また、普段目にしている当たり前の風景にどんな意味があるのかを実感し活用すれば、それぞれ特徴のある地域社会を作り上げることも可能です。

小郡市内には、江戸時代の街道や宿場町・在郷町の雰囲気を残した場所も多く、たくさんの古建築や石造物があります。また、目に見えない古くからの風習や信仰なども含めて、まさに文化遺産の宝庫と呼べるでしょう。今回再発見した数多くの文化遺産は、だれが調査したとしても見つけることができるものから、今回の調査担当者でなければ見つけられなかったものまで多種多様です。つまり、仮に文化財技師のみが行った悉皆調査であれば、ここまで成果は得られなかつたと言っても過言ではありません。そこには調査を担当した人間の強い思いがあり、それこそが今後のまちづくりの場面で活かされていくものであると言えます。今回新発見・再発見した各文化遺産の調査成果は、今後各地域に積極的に還元したいと考えています。各区で行うイベントや公民館での祭りなどの際に活用する機会があれば幸いです。

今後は約3年間をかけて、市内全域の文化遺産悉皆調査を実施する予定です。そして、最終年度には全てをまとめた本報告書を刊行します。これにより、みなさんの住む地域の特色がより色濃く浮かび上がってくることでしょう。小郡市教育委員会文化財課では、「小郡まちじゅう博物館」構想を掲げています。これは、現在はまだ眠っている市内各所の文化遺産を再発見し、それらを単体としてではなく体系的に結び付け、地域づくりの柱とするものです。市民と行政が一体となって、市内のどこにいても歴史と文化の薫るまちづくりを進め、来訪者だけでなくそこに住む自らが誇りを持って日常生活を過ごすことができる、そのような小郡を目指します。



小郡域と小郡校区の位置

第2章 小都市文化財行政基本構想とは

全国的に大規模開発が終焉を迎えた平成15年（2003）、小都市教育委員会文化財課では「小都市文化財行政基本構想」を策定し、文化財を取り巻く環境の変化とその対応について検討しました。中でも重要な課題の一つだった施設改善については、その目的をはっきりと明記し、それが平成16・17年度の増築に結び付いたと言っても過言ではありません。他にも、今では小都市の歴史の活用を語る上で欠かすことができない史跡案内ボランティアの必要性など、現在の文化財行政の土台となる指針を数多く明示しています。

この構想から8年が経過した平成23年（2011）、これまでの成果や課題を見直し、新たな社会の動きに対応するために「第2次小都市文化財行政基本構想」を策定しました。この構想の理念は、『ふるさとの歴史と文化を活かしたまちづくりを目指して』です。この中では、これから文化財行政に必要なのは、市民とともに足元の文化財の価値を再認識し、地域で文化財を守り伝えて行くつながりを作り上げることと表しました。策定過程では様々な視点から検討を加え、今後10年間の文化財行政の大きな柱を次の3本としました。

1. 文化をつくる ～幅広い専門性に基づいた調査と研究～

地域の文化をつくるには、まずその地域を良く知ることから始める必要があります。小都市では、これまで埋蔵文化財調査、市史編纂業務、伝承調査などを進めてきましたが、今後もこれを発展的に進め、考古・民俗・歴史など幅広い専門性の下に、小郡の文化の土台をしっかりと固める活動を進めます。

2. 文化を育てる ～市民とともに守り、次世代につなげる文化財～

多様な調査・研究により得られた資料や情報は、適切な保存・管理の計画を立て、整備・活用を図ることが必要です。中でも国指定史跡小郡官衙遺跡群に関しては、平成21年度からすでに計画が動き出しており、住民との協働を第一に考え、地域の方々とともに様々な事業に取り組んでいます。また、市内には未指定ながら貴重な建造物や記念物などが数多く残されており、無形文化財や無形民俗文化財も含めて、計画的な指定・登録による保護・活用を進めます。

3. 文化を活かす ～連携による文化の普及と活用～

この10年間、小都市における文化財の普及と活用は、学校教育と生涯学習の2部門を中心に進められてきました。これらは大きな成果を挙げ、特に学校教育の場面では、埋蔵文化財調査センター見学や出前授業・各種古代体験を通して、市内小学校全校と密接なつながりを作ってきました。今後はその上に、文化財を介した地域住民・団体との連携、文化財を軸とした自治体同士の連携、各種メディアを活用した情報の発信という3点にも重点を置いて進めていきます。

また、この中では、エコ・ミュージアム構想にも言及しています。エコミュージアムとは、コアミュージアムを中心として、周辺にサテライトミュージアムとなる施設を配置し、それをトレイル（散策路）で結びつけるものです。理念としては、住民と行政が一体となって発想し、形成し、運営する小さな施設の集合体と言えます。小都市内の史跡を結び付ける試みは、史跡案内（各種歴史の道設定や歩道案内表示）すでに始まっており、九州歴史資料館や埋蔵文化財調査センターを中心として、新しい文化発信・活用のかたちを作り上げます。

第3章 事業の経過と組織

(1) 事業に至る経過

小郡市内文化遺産再発見事業は、平成24年度福岡県緊急雇用創出事業（震災等緊急雇用対応事業）で実施しました。事業は、日常的には担当技師1名と新規雇用者3名を含む臨時職員5名の計6名体制で実施し、各区長さんとの打合せの後に現地調査に着手しました。

(2) 事業の経過

平成24年度事業は、平成24年4月2日に着手し、平成25年3月31日に終了しました。ただし、事業初年度ということもあり、当初はこれまでの調査が進んでいる松崎区を対象として実施しました。その後、7月30日より小郡校区の調査に着手し、現地調査は11月22日でほぼ終了しています。12月以降は室内での調査カード作成及び報告書作成を中心とした作業を行い、平成25年3月31日付で報告書第1集の刊行へと至りました。事業経過の概略は以下の通りです。

日 に ち	内 容
平成24年4月2日	平成24年度事業開始。新規雇用者への事業説明等を実施する。
4月6日	松崎区の調査を開始。現地悉皆調査がスタートする。
4月25日	九州湯布院民芸村で旧三原家建物の調査を実施。
5月9日	小郡校区区長会に出席し協力を依頼、快諾される。
7月26日	小郡校区の悉皆調査に向け、各区長との打ち合わせ開始。
7月30日	小郡校区の悉皆調査開始。駅前区から着手する。
9月13日	日吉神社の「こくぞう祭」の取材。
10月28日	松崎区文化祭で「松崎遺産再発見」と題したパネル展を実施。
11月22日	現地調査が一段落。この後は追加調査を中心に行う。
平成25年1月31日	調査カード作りがほぼ終了し、報告書作成を本格化する。
3月31日	報告書を刊行し、平成24年度事業が終了する。

(3) 関係組織

平成24年度の事業実施体制は以下のとおりです。

教 育 長 清武 輝

教 育 部 長 吉浦 大志博

課 長 片岡 宏二

係 長 柏原 孝俊

技 師 杉本 岳史

臨 時 職 員 井上千代美、岡藤成子、時里久美子、平峰正満、山下順平

宮崎美穂子（報告書編集作業担当）

なお、今回の調査は小郡校区区長会の全面的な協力の下で実施しました。特に区長会長の佐野立美氏（小板井2区）には、事業着手に向けた段階から校区内の調整まであらゆる面でご配慮いただきました。また、以下の方々にも調査指導等で大変お世話になりました。記して謝意を表します。

中島恒次郎氏（太宰府市役所）、高山美佳氏・福田忠昭氏（LOCAL&DESIGN株式会社）

第4章 調査の方法と内容

小都市内文化遺産再発見事業は、現在に残る文化遺産の悉皆調査が土台となります。つまり、まずは自分たちの足で地域を歩くことがスタートです。この報告書で対象としている小郡校区は、合計14区あり、8月から11月を中心に週に2回程度の“まちあるき”を実施しました。なお、実際に現地を歩く前には、各区長さんに様々な情報をいただき、それをもとに計画を立てています。今回の調査では、対象分野を限定しませんでした。その結果、古いものでは中世の道、新しいものでは現代の駅舎跡や記念碑など、バラエティに富んだ地域の“たから”を把握できました。

今回番号を登録した文化遺産は540件にも及び、それを大きく分類すると以下のようになります。

- ①埋蔵文化財
- ②まつり
- ③寺社
- ④交通
- ⑤信仰
- ⑥記念碑
- ⑦道と水路
- ⑧その他
- ⑨風景

現地で得た情報や写真は、室内でカード化します。カードに記載するのは次ページのように、場所・名称・時代・概要などです。カード化の際には、『小郡市史』はもちろん小郡市教育委員会所蔵の各文献を利用して調査を行いました。当初のカード化は手書きにより行いましたが、それらがまとまった後にはデータ化し、現在はパソコン上でも管理しています。カード化が進み、各区の状況把握ができた後には、不明な事項をまとめて各区長さんに問い合わせました（平成25年3月末日時点で進行中）。いずれの場面においても各区長さんに様々なご協力をいただいています。

なお、現地踏査は現在の住宅地図と明治22年（1890）に作成された旧字図との比較を基に進めましたが、これにより小郡校区には近世から続く道や水路がいたるところに残されていることが分かりました。中でも道の一部はその立地などから、中世にさかのぼる可能性が考えられ、今後さらなる調査が必要です。また、現地に残されていない埋蔵文化財については、最後にまとめてカード化しました。当初は悉皆調査成果とは切り離して報告する予定でしたが、いずれも地域の歴史を表す大事な“たから”と考え、一連の流れの中で報告することにしました。

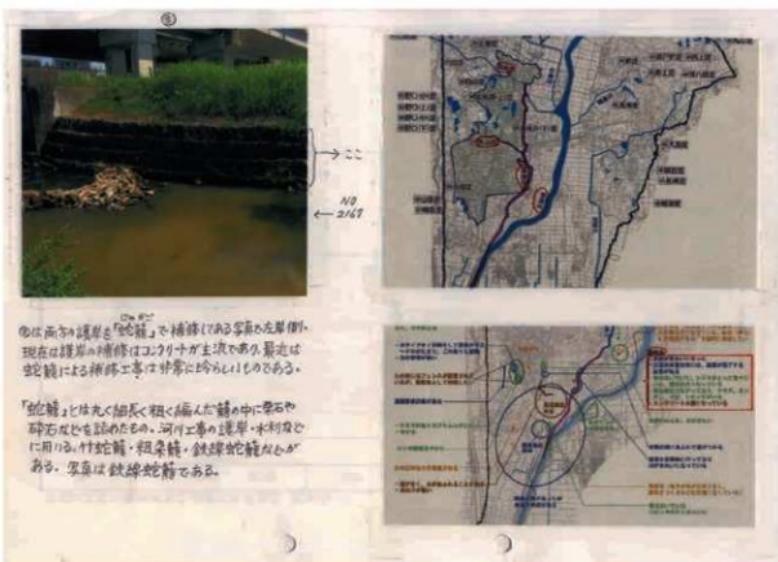
今回行った調査は、小郡校区の文化遺産を再発見する第1次調査と位置付けられます。今後はこれまでよりさらに多くの方々に話を聞きながら、未だ埋もれている地域の“たから”を発見していく予定です。



現地調査風景

平成24年度小栗市内文化遺産再発見事業 資料カード

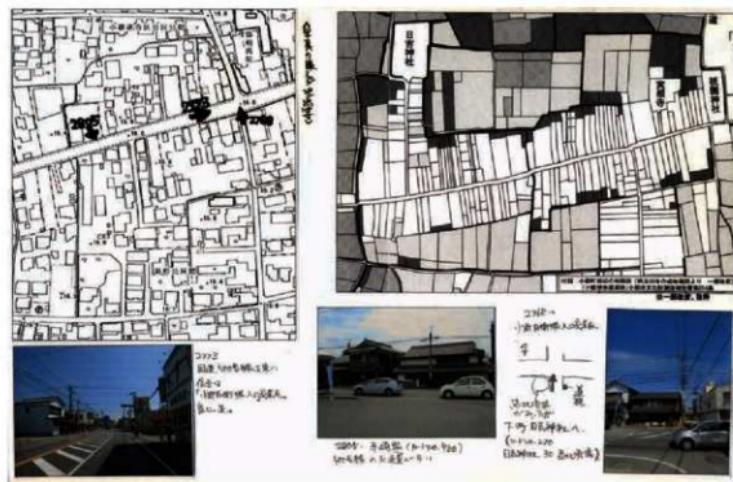
地 名	300	地 域	小郡	場 所	大字:大根井、小根井、稻吉、大崎、与福里			
名 称	熊地川							
時 代	不明							
<p>概要: 熊地川は宝満川の支流であり、その源流は大根井川北側に高原川から分岐して清水出し又小郡町南端に位置する若山浸が山から流れ出て、これ本川が大崎附近で「諱」に沿って熊地川となり、大崎を抜けて小郡鉄道開闢の直近で宝満川と合流する。細河川である。</p> <p>これは500号線小郡郵便局前花苦櫻北側の「乱斗場地標」 がら熊地川の北側を眺望したもの。</p> <p>④は同じ場所から東側を眺望したもの。</p>								
(表八)								
文 獻:								
<p>『小郡市史』第 2 卷 P ~ P</p> <p>小郡市ホームページより</p>					写真No.2150~2169			
記録日:								
<p>当初=平成2年8月22日(木) 記録者:平野</p>								
<p>追加=平成 年 月 日() 記録者:</p>								
<p>追加=平成 年 月 日() 記録者:</p>					①			
					2/19			



資料カード例①（上：表面、下：裏面）

平成24年度小郡市内文化遺産再見要覧 資料力一

施	455	地 域	小 郡	場 所	大 学: 小 郡 幸: 中 郡 (中 郡)			
名 称	中町区道			地 图				
時 代								
概 要: 中町区に跨る是辻子山道(現北山道と並ぶ)と東口筋=2762号道の2762号、南山道(小郡市上下町下町通明)(御殿山田原街道)中町東山道は新規、等高線、7箇点(△)2762号、2761号、2763号(△)2762号(2761号の延長)和置木V字谷、南北(開削33年)、東西(2762号)、南北(2761号)、南北(2763号)、南北(2762号)、南北(2761号)、南北(2763号)、南北(2762号)、南北(2761号)、南北(2763号)								
文 稿: (70.3 新井山道) (204 四月山道)								
『小郡市史』第 一 卷 P. ~ P. 市社上(2/10) “中町区道主査跡”								
記録日: 当初=平成 5 年 1 月 1 日(不) 記録者: 山 下 追加=平成 年 月 日() 記録者: 追加=平成 年 月 日() 記録者:								
参考資料 1 中町道標(2761) 付箋名參照								



資料力一例② (上: 表面、下: 裏面)

第5章 小郡校区の文化遺産

(1) 地理的環境

小郡市内中央部を北から南に流れる宝満川とその流域には三角州性低地が形成され、肥沃な水田地帯となっています。宝満川の両側には台地が広がりますが、そのほとんどは更新世の砂礫粘土層でできた河岸段丘です。この台地上には古くからの集落が広がり、現在も地域の中心となっている場合が多く見られます。なお、小郡校区を見てみると、端間から福童にかけての低位段丘は、その北部の寺福童の中位段丘と離れて立地しています。ここでは秋光川の旧河道跡が確認されており、比較的長い期間に渡って、この川は寺福童と福童の間を流れていったことが分かります。

宝満川流域の低地は農業に適した豊かな土地ですが、土砂を運搬してその土地を造った恵みの川宝満川も、豪雨による氾濫を繰り返してきました。昭和28年（1953）や昭和38年（1963）の冠水は現在でもたくさんの人々の記憶に残っています。なお、稲吉付近から南には自然堤防が散在し、複雑な宝満川の流路変更の歴史を物語っています。

(2) 歴史的環境

小郡内でこれまでに発見された旧石器時代・縄文時代の遺跡は非常に少数ですが、校区内の大崎井牟田遺跡で縄文時代前期の石組炉が見つかりました。

弥生時代に入ると、まず北部の三国丘陵周辺で活発な集落活動が見られます。また、2008年に調査された大保横枕遺跡2地点では、弥生時代前期の2重環濠が確認され、大きな話題となりました。校区内では、寺福童遺跡5地点で調査された弥生時代前期から古墳時代へと断続的に続く墓地が注目されます。特に弥生時代前期の木棺墓は地域で初めての発見で、その内部からは有柄式磨製石剣、柳葉



小郡市中部の全景（南西上空から）

形磨製石鏃という大陸系の武器が数多く出土しました。2004年には寺福童遺跡4地点で銅戈の埋納遺構が見つかりました。この遺跡内には、他に同時代の遺構が存在せず、どのような集団がどんな意図でこの宝器をここに埋めたのか非常に興味深いところです。

弥生時代中期から後期の遺跡は、校区内で数多く見つかっています。これらは、弥生時代中期の拠点集落小郡・大板井遺跡群から派生・拡張したものと考えられ、小板井屋敷遺跡、大崎小園遺跡、大崎遺跡、大崎中ノ前遺跡、大崎後原遺跡などが挙げられます。大崎中ノ前遺跡では赤・黒漆塗りの木製品が出土し、注目されます。

古墳時代前期には大崎小園遺跡1地点や福童町遺跡1地点で集落が、寺福童遺跡1地点で墓地が見つかりました。これらの遺跡からは畿内系の土器がまとまって出土し、地域の位置付けを考える上で非常に重要です。

小郡の古代の中心は国指定史跡小郡官衙遺跡群（小郡官衙遺跡・上岩田遺跡）です。7世紀後半の評衡と考えられる上岩田遺跡は、日本という国の成り立ちを考える上で欠かすことができない遺跡です。小郡官衙遺跡は昭和42年（1967）に発見された筑後國御原郡衙の跡です。特に7世紀末から8世紀前半にかけては、政庁や正倉といった建物群が規則正しく配置され、郡衙の教科書とも言われています。この時期には校区内でもたくさんの遺跡が確認されています。小板井蓮輪遺跡や大崎小園遺跡では多くの竪穴式住居跡が確認され、小郡前伏遺跡では集落とともに当時の御原郡衙（小郡官衙遺跡）へ向かう道路が発見されました。小板井京塚遺跡3地点では綠釉陶器や鉄製の鋸といった当時の貴重品も出土しています。

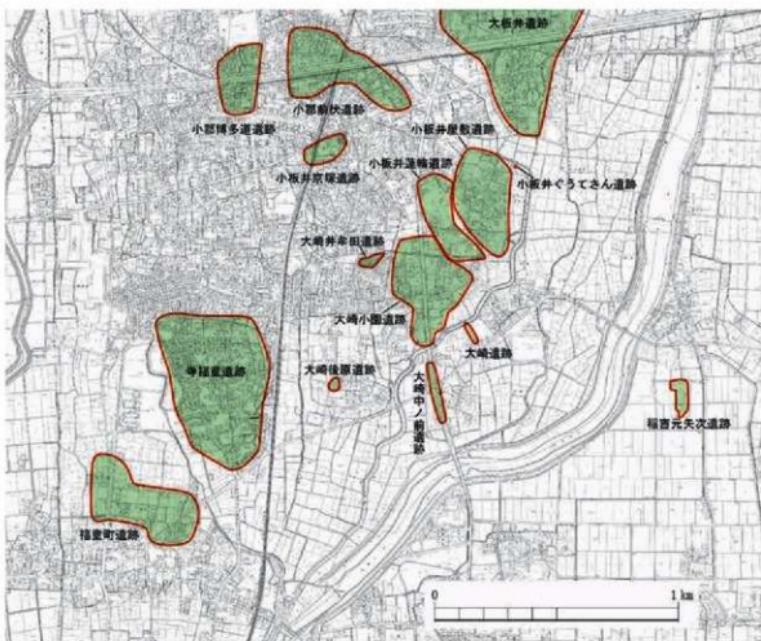
中世になると、大崎から宝満川をはさんだ東側で稻吉元矢次遺跡が出現します。この遺跡は宝満川の川港と考えられ、中国製の陶磁器が大量に見つかりました。校区内でも小板井屋敷遺跡などで同じく中国産の青磁が出土しています。また、中世九州最大の合戦「大保原合戦」ではこの地も戦場となり、その名残りが高見下や前伏という字名に残っています。

江戸時代以降の歴史は、現在の姿にそのままつながります。当時書かれた書物によると、小郡町が現在の場所に本格的に形成されたのは17世紀中頃のようです。町は当初、上町・中町・下町で構成され、その後新町や西道町などができました。中央には幅6mの道路が走り（現在の国道500号線）、上町と中町の境目付近には高札場や松崎番所の下番所が置かれました。小郡博多道遺跡では、小郡から出て現在の基山町で長崎街道に合流する「博多道」の跡が見つかっています。18世紀前半には町の東西に構口を設置し、町の中には現在も水路として残る2重の堀を掘削しました。なお、實相寺は1653年に勧請され、祇園神社は1654年、日吉神社は1672年に現在地へ遷宮されました。

以上のように、小郡校区の歴史は縄文時代から現在まで連綿と続いていることが分かります。特に弥生時代には注目すべき遺跡も多く、江戸時代以降の発展と併せて、歴史の宝庫と言える地域です。



江戸時代の小郡町のようす



小郡校区の主な遺跡 (S=1/15000)



戦後間もない頃の小郡から福童周辺（昭和23年撮影）
(国土地理院所有)

(3) 文化遺産の内容

先述したように、本書では小郡校区の文化遺産を9分野に分けて報告します。各分野の特徴は以下のとおりです。なお、ページの都合上、今回は調査で文化遺産として登録した多数の“たから”の中から、一部のみを紹介します。詳細は一覧表及び本報告書をご参照下さい。

①埋蔵文化財

小郡校区は市内でも有数の遺跡の密集地です。つまり、これは数千年の昔から人々が住み続けていることを表しています。遺跡から見つかるのは、小さな土器のかけらから当時の権力者しか持つことができない宝物まで多岐に渡ります。その一つ一つが現在の小郡の礎と言えるでしょう。

②まつり

小郡校区のまつりは、数区にまたがる規模の大きなものから、区内で行う小さなものまで様々です。長い伝統のあるまつりを子供たちも一緒になって盛り上げるようすからは、地域の本来の姿が見えてきます。

③寺社

小郡校区の寺社には、隣接する鳥栖市田代宿の寺社とつながりが深いものが目立ちます。古代から現在まで国や県は異なりますが、九州有数の交通の要衝として一体となって発展してきた様子が目に浮かびます。

④交通

現在の小郡校区には西鉄や甘木鉄道、そして高速道路も通っていますが、中世以降の端間港の発展を忘れてはいけません。江戸時代の小郡町の興隆を築いた櫛船の出荷も、この端間港の存在があってこそでした。

⑤信仰

小郡校区の信仰の特徴は、現在でもたくさんのお地蔵さんや観音さまが各家々や路傍で祀られていることです。中でも西福童や東福童では、中世から続く古い道に沿って多くのお堂が見られ、日常生活に密着した本来のいのりの姿を今に伝えています。

⑥記念碑

小郡校区の記念碑で有名なのは、東町公園にある「大原古戦場碑」でしょう。大保原（大原）合戦で亡くなった人々への鎮魂の祈りは、50年毎の記念碑として形となっています。この他にも各寺社の境内を中心に多くの記念碑が残され、昔と今の人々の思いをつないでいます。

⑦道と水路

小郡校区内の道と言えば、まず江戸時代の彦山道と横隈街道が挙げられます。これらは主要道として筑後国内外の多くの人々が行き来しました。また、小郡町には当時の水路や町の区画がきれいに残されています。一つの校区内で中世と近世の区割りが確認できる貴重な地域です。

⑧その他

校区内には少し昔の雰囲気を残した珍しいものもたくさんあります。これらの中には、丸型ボストなどのように近年見直しが図られているものもあり、いずれは地域の大歴史の証人になるものばかりです。

⑨風景

小郡校区はほとんどが平坦地で、周辺の山々を見渡すことができます。東を見れば広大な田園地帯とその奥にたたずむ花立山、西に目をやれば青々とした脊振山系。身近に存在する宝満川はもちろん、このような風景からも自然の恵みを感じることができます。

No.	種別	名 称	大字	字	行政区	No.	種別	名 称	大字	字	行政区
237	寺社	日吉神社	小郡	下町	下町	312	石造	祇園神社 27 廣林神社	小郡	上町	上町
238	建物	日吉神社 神殿	小郡	下町	下町	313	石造	祇園神社 28 八幡大神	小郡	上町	上町
239	石造	日吉神社 1 狹犬 一対	小郡	下町	下町	314	石造	祇園神社 29 大己貴神	小郡	上町	上町
240	石造	日吉神社 2 放立石	小郡	下町	下町	315	石造	祇園神社 30 天照神社	小郡	上町	上町
241	石造	日吉神社 3 灯籠 一対	小郡	下町	下町	316	石造	祇園神社 31 惠比寿像	小郡	上町	上町
242	石造	日吉神社 4 石獅	小郡	下町	下町	317	石造	祇園神社 32 双子像	小郡	上町	上町
243	石造	日吉神社 5 灯籠 一対	小郡	下町	下町	318	石造	祇園神社 33 石台	小郡	上町	上町
244	石造	日吉神社 6 石柱	小郡	下町	下町	319	石造	祇園神社 34 玉垣奉納碑	小郡	上町	上町
245	石造	日吉神社 7 鳥居	小郡	下町	下町	320	樹木	祇園神社 ① サルスベリ	小郡	上町	上町
246	石造	日吉神社 8 灯籠 一対	小郡	下町	下町	321	樹木	祇園神社 ② エノキ	小郡	上町	上町
247	石造	日吉神社 9 上掛け石 一対	小郡	下町	下町	322	樹木	祇園神社 ④ サツカラ 4 本	小郡	上町	上町
248	石造	日吉神社 10 灯籠 一基	小郡	下町	下町	323	樹木	祇園神社 ⑤ マキ	小郡	上町	上町
249	石造	日吉神社 11 狹犬 一対	小郡	下町	下町	324	樹木	祇園神社 ⑦ イチガシ	小郡	上町	上町
250	石造	日吉神社 12 社号標	小郡	下町	下町	325	樹木	祇園神社 樹木	小郡	上町	上町
251	石造	日吉神社 13 石段	小郡	下町	下町	326	樹木	祇園神社 祭り	小郡	上町	上町
252	石造	日吉神社 14 鳥居	小郡	下町	下町	327	寺社	實相寺	小郡	上町	上町
253	石造	日吉神社 15 織世音菩薩坐像	小郡	下町	下町	328	建築	實相寺 本堂	小郡	上町	上町
254	石造	日吉神社 16 虚空藏菩薩坐像	小郡	下町	下町	329	石造	實相寺 1 灯籠 一対	小郡	上町	上町
255	石造	日吉神社 17 三猿像	小郡	下町	下町	330	銅像	實相寺 2 獅像 「旅立ちの法然さま」	小郡	上町	上町
256	石造	日吉神社 18 灯籠 一基	小郡	下町	下町	331	石造	實相寺 3 水盤	小郡	上町	上町
257	石造	日吉神社 19 親子猿掛像	小郡	下町	下町	332	銅像	實相寺 4 離縁	小郡	上町	上町
258	石造	日吉神社 20 大姉猿石像	小郡	下町	下町	333	石造	實相寺 5 万葉塔	小郡	上町	上町
259	石造	日吉神社 21 碑「奉納 青鱗像」	小郡	下町	下町	334	石造	實相寺 6 不動明王立像	小郡	上町	上町
260	石造	日吉神社 22 潮井台	小郡	下町	下町	335	石造	實相寺 7 万葉塔	小郡	上町	上町
261	石造	日吉神社 23 親子猿石像	小郡	下町	下町	336	石造	實相寺 8 地蔵菩薩坐像	小郡	上町	上町
262	石造	日吉神社 24 碑「奉納 親子猿掛像」	小郡	下町	下町	337	石造	實相寺 9 離縁	小郡	上町	上町
263	石造	日吉神社 25 碑「夫婦大姉猿像」	小郡	下町	下町	338	石造	實相寺 10 阿弥陀如来坐像ほか	小郡	上町	上町
264	石造	日吉神社 26 碑「石塼」	小郡	下町	下町	339	石造	實相寺 11 織世音菩薩立像ほか	小郡	上町	上町
265	石造	日吉神社 27 碑「奉納 青鱗像」	小郡	下町	下町	340	石造	實相寺 12 弘法大師坐像ほか	小郡	上町	上町
266	石造	日吉神社 28 水盤	小郡	下町	下町	341	建築	實相寺 13 山門	小郡	上町	上町
267	石造	日吉神社 29 碑「改築記念」	小郡	下町	下町	342	石造	實相寺 14 門柱 一対	小郡	上町	上町
268	石造	日吉神社 30 碑「神社遷座基金 奉納記念」	小郡	下町	下町	343	石造	實相寺 15 五重塔	小郡	上町	上町
269	石造	日吉神社 31 参道の瀬石	小郡	下町	下町	344	建設	實相寺 16 納骨堂	小郡	上町	上町
270	石造	日吉神社 32 惠比寿像	小郡	下町	下町	345	石造	實相寺 17 灯籠 一対	小郡	上町	上町
271	石造	日吉神社 33 惠比寿像	小郡	下町	下町	346	石造	實相寺 18 無縫塔	小郡	上町	上町
272	石造	日吉神社 34 阿弥陀如来坐像	小郡	下町	下町	347	石造	實相寺 19 由中宗易基	小郡	上町	上町
273	石造	日吉神社 35 弘法大師坐像	小郡	下町	下町	349	樹木	實相寺 樹木	小郡	上町	上町
274	石造	日吉神社 36 不動明王立像	小郡	下町	下町	350	石造	駿駁前 道	小郡	—	駿駁前
275	石造	日吉神社 37 碑「蓬華巖」	小郡	下町	下町	352	水路	駿駁前 水路	小郡	—	駿駁前
276	石造	日吉神社 38 石段	小郡	下町	下町	353	建築	北浦の御堂	小郡	北浦	駿駁前
277	樹木	日吉神社 ① 大姉猿杏	小郡	下町	下町	354	公園	北浦公園	小郡	北浦	駿駁前
278	樹木	日吉神社 ② 桜の木	小郡	下町	下町	355	建築	田原町甘林木彌 築後小郡駅	小郡	古紙關	駿駁前
279	樹木	日吉神社 ③ クヌキ	小郡	下町	下町	356	石造	峰三吉地蔵 法善坐像	井手半田下町	—	—
280	樹木	日吉神社 ④ 御藤	小郡	下町	下町	357	石造	井手半田地蔵菩薩立像	井手半田下町	—	—
281	樹木	日吉神社 ⑤ イヌマキ	小郡	下町	下町	359	公園	東町公園	小郡	前伏	東町
282	樹木	日吉神社 ⑥ クヌキ	小郡	下町	下町	360	石造	東町公園 1 碑「大原合戦場碑」	小郡	前伏	東町
283	樹木	日吉神社 ⑦ 樹木	小郡	下町	下町	361	石造	東町公園 2 碑「大原合戦六百年祭記念碑」	小郡	前伏	東町
284	寺社	祇園神社	小郡	上町	上町	362	石造	東町公園 3 神經記念碑の解説碑	小郡	前伏	東町
285	律勸	祇園神社 神殿	小郡	上町	上町	363	石造	東町公園 4 碑「父宮殿内成之路」	小郡	前伏	東町
286	石造	祇園神社 1 狹犬 一対	小郡	上町	上町	364	石造	東町公園 5 碑「院若宮向紀殿下御成之跡」	小郡	前伏	東町
287	石造	祇園神社 2 灯籠 一対	小郡	上町	上町	365	石造	東町公園 6 碑「領主原合戦六〇周年」	小郡	前伏	東町
288	石造	祇園神社 3 灯籠 一対	小郡	上町	上町	366	石造	東町公園 7 碑「大原役戦跡上ノ碑」	小郡	前伏	東町
289	石造	祇園神社 4 灯籠 一対	小郡	上町	上町	367	石造	東町公園 8 東野源池彌造	小郡	前伏	東町
290	石造	祇園神社 5 灯籠 一対	小郡	上町	上町	368	石造	東町公園 9 開基記念碑	小郡	前伏	東町
291	石造	祇園神社 6 潮井台	小郡	上町	上町	369	石造	東町公園 10 碑「東野源池記念碑」	小郡	前伏	東町
292	石造	祇園神社 7 灯籠 一対	小郡	上町	上町	370	石造	東町公園 11 碑「寄附名」	小郡	前伏	東町
293	石造	祇園神社 8 灯籠 一対	小郡	上町	上町	371	石造	東町公園 12 碑「山口伊吉翁記念碑」	小郡	前伏	東町
294	石造	祇園神社 9 灯籠 一対	小郡	上町	上町	372	石造	東町公園 13 碑「内山伊吉之碑」	小郡	前伏	東町
295	石造	祇園神社 10 灯籠 一対	小郡	上町	上町	373	石造	東町公園 14 碑「忠魂碑」	小郡	前伏	東町
296	石造	祇園神社 11 鳥居	小郡	上町	上町	374	石造	東町公園 15 水盤	小郡	前伏	東町
297	石造	祇園神社 12 鳥居	小郡	上町	上町	375	石造	東町公園 16 招福所 灯籠 一対	小郡	前伏	東町
298	石造	祇園神社 13 狹犬 一対	小郡	上町	上町	376	石造	東町公園 17 手造所建設記念碑	小郡	前伏	東町
299	石造	祇園神社 14 灯籠 一対	小郡	上町	上町	377	石造	東町公園 18 招福所	小郡	前伏	東町
300	石造	祇園神社 15 石柱	小郡	上町	上町	378	樹木	東町公園 19 碑「日露戦役記念樹」・マツ	小郡	前伏	東町
301	石造	祇園神社 16 注連掛石 一対	小郡	上町	上町	379	樹木	東町公園 20 樹木	小郡	前伏	東町
302	石造	祇園神社 17 旗立石 一対	小郡	上町	上町	380	水路	築地川	—	—	—
303	石造	祇園神社 18 石壇	小郡	上町	上町	381	石造	築地川起点石標 一対	—	—	東町
304	石造	祇園神社 19 雪見灯籠	小郡	上町	上町	382	道	甘鉄高架下の歩道	小郡	前伏	東町
305	石造	祇園神社 20 廣林神社 灯籠 一対	小郡	上町	上町	383	道	東町区道	小郡	—	東町
306	石造	祇園神社 21 庚申神社	小郡	上町	上町	384	水路	東町区 水路	小郡	—	東町
307	石造	祇園神社 22 瑇垣	小郡	上町	上町	385	道	馬洗跡	小郡	盆地	東町
308	石造	祇園神社 23 碑「改築記念」	小郡	上町	上町	386	建築	小郡役場(井手運送)	小郡	京塚	東町
309	石造	祇園神社 24 碑「祇園神社整備記念碑」	小郡	上町	上町	387	石造	前伏石祠	小郡	前伏	東町
310	石造	祇園神社 25 水瓶	小郡	上町	上町	388	石造	神社「和魔神」	小郡	前伏	東町
311	石造	祇園神社 26 参道の瀬石	小郡	上町	上町	389	石造	碑「伊勢夢拜記念」	小郡	京塚	東町

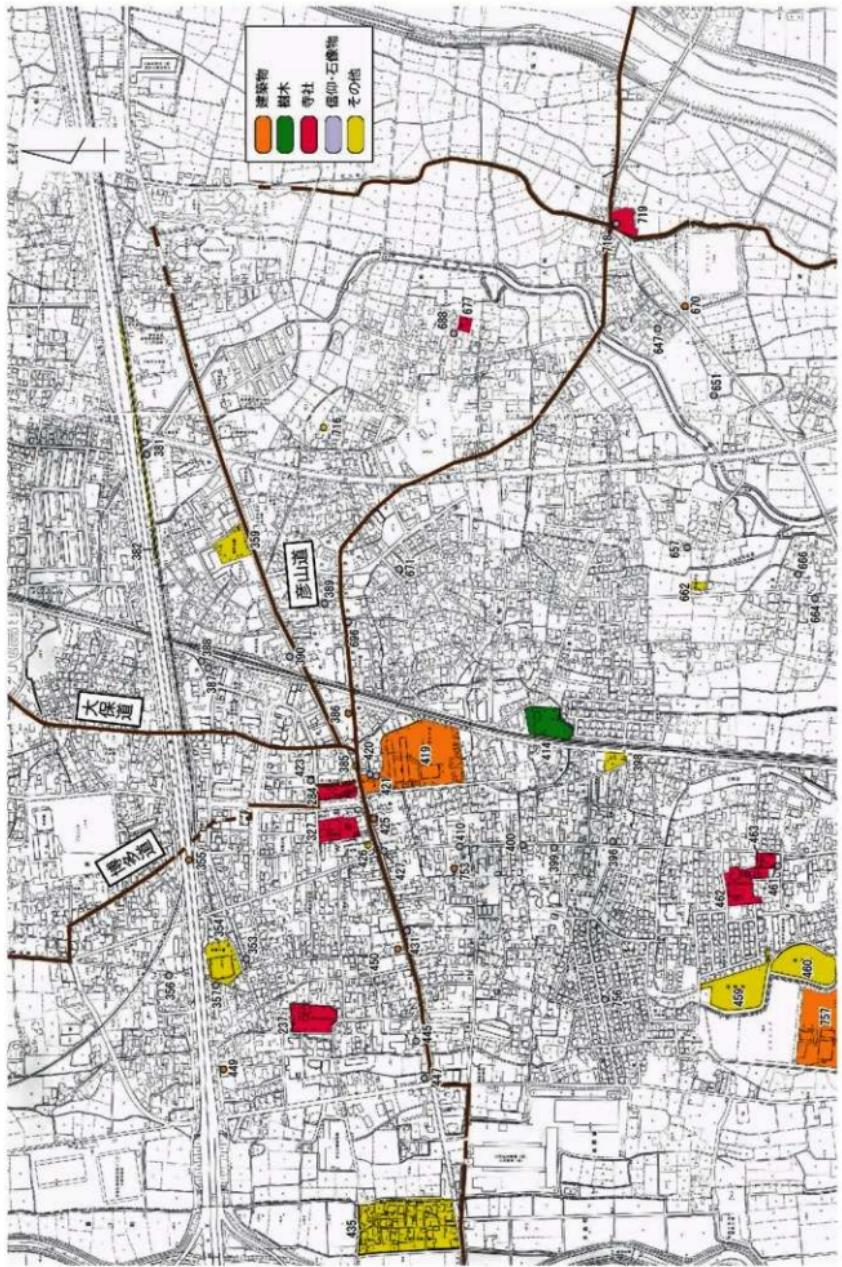
No.	種別	名 称	大字	字	行政区	No.	種別	名 称	大字	字	行政区
390	石造	前伏代比寿像	小郡	前伏	東町	509	石造	押福利寺 2 水盤	守福堂	神屋敷	守福堂
392	道	開1・2区道	今福堂	一	開1・2	510	石造	押福利寺 3 碑「本堂庵改修記念碑」	守福堂	神屋敷	守福堂
393	水路	開1・2区水路	今福堂	一	開1・2	511	建築	押福利寺 4 聰音堂	守福堂	神屋敷	守福堂
396	建築	開削道東石堂 地蔵菩薩坐像ほか	今福堂	開削道東	開	512	石造	押福利寺 5 寄通碑	守福堂	神屋敷	守福堂
398	公園	花こうえん	今福堂	開削道東	開	513	建築	押福利寺 6 露盤殿	守福堂	神屋敷	守福堂
399	建築	西町1丁社 法弘大師坐像ほか	今福堂	西町口	開1	514	石造	押福利寺 7 碑「露盤殿建之記念碑」	守福堂	神屋敷	守福堂
400	石造	北町1・惠比寿像	今福堂	西町口	開1	515	石造	押福利寺 8 五重塔	守福堂	神屋敷	守福堂
406	道	新町区道	小郡	新町	新町	516	石造	押福利寺 9 水盤	守福堂	神屋敷	守福堂
410	石造	新町恵比寿像	小郡	新町	新町	517	石造	押福利寺 10 積もれた石	守福堂	神屋敷	守福堂
414	樹木	孤松の金木竹	今福堂	孤塚	開1	518	石造	押福利寺 11 灯籠 一对	守福堂	神屋敷	守福堂
415	建築	宮の御手道橋	小郡	上町	上町	519	石造	押福利寺 12 灯籠 一对	守福堂	神屋敷	守福堂
417	道	博多道	一	一	—	520	石造	押福利寺 14 法華経塔	守福堂	神屋敷	守福堂
418	道	大保道	一	一	—	521	石造	押福利寺 15 碑「納骨堂加入者銘」	守福堂	神屋敷	守福堂
419	建築	小郡立学校	小板井	小郡前	上町	522	石造	押福利寺 16 寄附碑	守福堂	神屋敷	守福堂
420	石造	小郡立学校 駿恩堂	小板井	小郡前	上町	523	石造	押福利寺 17 弘法大師立像	守福堂	神屋敷	守福堂
421	石造	小郡立小学校 勝常高等小学校門柱 一対	小板井	小郡前	上町	524	石造	押福利寺 18 弘法大師立像	守福堂	神屋敷	守福堂
422	樹木	小郡立小学校 樹木	小板井	小郡前	上町	525	石造	押福利寺 19 水盤	守福堂	神屋敷	守福堂
423	石造	山川ルーム記念碑	小郡	清六浦	上町	526	石造	押福利寺 20 弘法大師像を囲む垣	守福堂	神屋敷	守福堂
425	建築	田中三郎商店	小郡	上町	上町	527	石造	押福利寺 21 碑「漁手久三翁之碑」	守福堂	神屋敷	守福堂
426	施	施と院の駒教急事	小郡	上町	上町	528	石造	押福利寺 22 施と院	守福堂	神屋敷	守福堂
427	石造	小郡立町道標	小郡	中町	中町	529	石造	押福利寺 23 碑「弘法大師伝考紀念碑」	守福堂	神屋敷	守福堂
431	石造	中町1丁社 豊樂師如来坐像	小郡	中町	中町	530	石造	押福利寺 24 碑「弘法大師伝考紀念碑」を囲む垣	守福堂	神屋敷	守福堂
432	石造	中町1丁社の手水鉢	小郡	中町	中町	531	石造	押福利寺 25 碑「修行大師給三年忌」	守福堂	神屋敷	守福堂
433	祭	日吉町社 虚空藏祭	小郡	下町	下町	532	石造	押福利寺 26 碑「修行大師参詣多年回忌」	守福堂	神屋敷	守福堂
435	地城	日恵寺交差点と集落	鳥居市	永吉町	奈村外	533	建築	押福利寺 27 碑「修行大師五十年回紀」	守福堂	神屋敷	守福堂
444	道	西道町	小郡	下町	下町	534	石造	押福利寺 28 御堂	守福堂	神屋敷	守福堂
445	石造	胡蝶塚	小郡	下町	下町	535	石造	押福利寺 29 6地蔵	守福堂	神屋敷	守福堂
447	石造	小郡立町界標	小郡	下町	下町	536	石造	押福利寺 30 福禄寺	守福堂	神屋敷	守福堂
449	建築	田中1丁社商店店舗	小郡	下町	下町	537	建築	押福利寺 31 福禄寺	守福堂	神屋敷	守福堂
450	建物	さとう別荘	小郡	下町	下町	538	石造	押福利寺 32 明王像	守福堂	神屋敷	守福堂
451	水路	二又水路	小郡	一	下町	539	石造	押福利寺 33 一ノ瀧不動	守福堂	神屋敷	守福堂
452	道	西海道	一	一	—	540	石造	押福利寺 34 修行大師參詣多年回忌	守福堂	神屋敷	守福堂
453	道	上町区道	小郡	上町	上町	541	石造	押福利寺 35 西園公園 寄附碑	守福堂	東内側	西福屋
454	水路	上町15区水路	小郡	上町	上町	542	石造	東内側の防火用水	守福堂	東内側	西福屋
456	道	中町区道	小郡	中町	中町	543	木像	東内側佛堂 1 木造仏像	守福堂	東内側	西福屋
456	水路	中町15区水路	小郡	中町	中町	544	石造	東内側佛堂 2 薬師如来像	守福堂	東内側	西福屋
457	道	下町区道	小郡	下町	下町	545	石造	東内側佛堂 3 大日如来像	守福堂	東内側	西福屋
458	水路	下町区水路	小郡	下町	下町	546	石造	東内側佛堂 4 石神	守福堂	東内側	西福屋
459	水路	山滔池	今福堂	山滔	山滔	547	石造	東内側佛堂 5 火防用水	守福堂	東内側	西福屋
460	水路	福滔池	今福堂	山滔	山滔	548	木像	東内側佛堂 6 木造仏像	守福堂	東内側	西福屋
461	石造	禪福南のガランさん①②	今福堂	禪福南	禪福南	549	石造	東内側石碑	守福堂	内側	東福屋
462	寺社	寺福堂社	今福堂	禪福南	禪福南	550	石造	東内側石碑 綱吉音菩薩化像	守福堂	内側	東福屋
463	寺社	押福利寺	今福堂	禪福南	禪福南	551	建築	内爆仕上	守福堂	内側	東福屋
473	石造	内堀1丁道東石堂 石造坐像	今福堂	内堀1丁道	内堀1丁道	552	石造	内爆仕上 1 碑「毘沙門天紀念碑」	守福堂	内側	東福屋
475	他	木村商店前丸型郵便ポスト	今福堂	内堀1丁道	内堀1丁道	553	建築	内爆仕上 2 觀音門天・弘法大師堂	守福堂	内側	東福屋
476	石造	觀音入り口柱	今福堂	内堀1丁道	内堀1丁道	554	石造	内爆仕上 3 弘法大師坐像	守福堂	内側	東福屋
477	地城	福寂寺古戰場	今福堂	福寂寺	福寂寺	555	木像	内爆仕上 4 觀音門天立像	守福堂	内側	東福屋
478	石造	福寂寺古戰場 1 木盤	今福堂	福寂寺	福寂寺	556	建築	内爆仕上 5 天満宮 神像	守福堂	内側	東福屋
479	石造	福寂寺古戰場 2 弘法大師坐像	今福堂	福寂寺	福寂寺	557	建築	内爆仕上 6 藏王音如意輪觀音坐像	守福堂	内側	東福屋
480	石造	福寂寺古戰場 3 虚空藏菩薩坐像	今福堂	福寂寺	福寂寺	558	石造	内爆仕上 7 水盤	守福堂	内側	東福屋
481	石造	福寂寺古戰場 4 歩跡 福寂原古戰場	今福堂	福寂寺	福寂寺	559	石造	碑「東福堂公民館建設記念」	守福堂	内側	東福屋
482	石造	福寂寺古戰場 5 霊魂碑	今福堂	福寂寺	福寂寺	560	石造	碑「附人附東區」	守福堂	内側	東福屋
483	石造	福寂寺古戰場 6 ガランさん⑤	今福堂	福寂寺	福寂寺	561	石造	碑「耕地整理記念碑」	守福堂	町	東福屋
484	石造	福寂寺古戰場 7 石柱「願成就」	今福堂	福寂寺	福寂寺	562	石造	草草大明神	守福堂	草草	東福屋
485	建築	福寂寺社 神殿	今福堂	福寂寺	福寂寺	563	社寺	應眞寺	守福堂	内側	西福屋
490	石造	福寂寺社 1 大蛇 一対	今福堂	福寂寺	福寂寺	564	石造	應眞寺 1 庭	守福堂	内側	西福屋
491	石造	福寂寺社 2 辻掛石 一対	今福堂	福寂寺	福寂寺	565	建築	應眞寺 2 本堂	守福堂	内側	西福屋
492	石造	福寂寺社 3 灯籠 一対	今福堂	福寂寺	福寂寺	566	石造	應眞寺 3 木盤	守福堂	内側	西福屋
493	石造	福寂寺社 4 水盤	今福堂	福寂寺	福寂寺	567	石造	應眞寺 4 碑「本堂祖瓦葺替・・・」	守福堂	内側	西福屋
494	石造	福寂寺社 5 灯籠 一基	今福堂	福寂寺	福寂寺	568	石造	草草大明神	守福堂	草草	東福屋
495	石造	福寂寺社 6 灯籠 一対	今福堂	福寂寺	福寂寺	569	石造	應眞寺 5 五重塔	守福堂	内側	西福屋
496	建築	福寂寺社 7 菩薩神社	今福堂	福寂寺	福寂寺	570	建築	應眞寺 6 雷音堂	守福堂	内側	西福屋
497	建築	福寂寺社 8 天満宮	今福堂	福寂寺	福寂寺	571	石造	應眞寺 7 納骨堂 灯籠 一对	守福堂	内側	西福屋
498	石造	福寂寺社 9 碑「福寂闇闇小都非常記念碑」	今福堂	福寂寺	福寂寺	572	石造	應眞寺 8 賤慢者供養碑	守福堂	内側	西福屋
499	石造	福寂寺社 10 碑「田中稻穀貢頤碑」	今福堂	福寂寺	福寂寺	573	石造	應眞寺 9 灯籠 一对	守福堂	内側	西福屋
500	石造	福寂寺社 11 鳥居	今福堂	福寂寺	福寂寺	574	石造	應眞寺 10 碑「佐藤先生紀念碑」	守福堂	内側	西福屋
501	石造	福寂寺社 12 旗立石	今福堂	福寂寺	福寂寺	575	石造	應眞寺 11 碑「神母導入仏、梵鐘堂落慶記」	守福堂	内側	西福屋
502	石造	福寂寺社 13 碑「福寂闇闇小都非常記念碑」の解説	今福堂	福寂寺	福寂寺	576	石造	應眞寺 12 梵鐘堂	守福堂	内側	西福屋
503	建築	福寂寺社 14 公民館	今福堂	福寂寺	福寂寺	577	石造	應眞寺 13 碑「寄贈 石造並刻」	守福堂	内側	西福屋
504	石造	福寂寺社 15 碑「寄贈 石十本」	今福堂	福寂寺	福寂寺	578	建築	應眞寺 14 門	守福堂	内側	西福屋
505	祭	福寂寺社 16 土俵	今福堂	福寂寺	福寂寺	579	石造	應眞寺 15 石橋と木路	守福堂	内側	西福屋
506	樹木	福寂寺社 樹木	今福堂	福寂寺	福寂寺	580	樹木	應眞寺 16 樹木	守福堂	内側	西福屋
507	建築	福寂寺 本堂	今福堂	福寂寺	福寂寺	581	社寺	大中臣社 神殿	守福堂	内側	西福屋
508	石造	福寂寺 1 三重塔 「一石法華塔」	今福堂	福寂寺	福寂寺	582	建築	大中臣社 神殿	守福堂	内側	西福屋

No.	種別	名 称	大字	字	行政区	No.	種別	名 称	大字	字	行政区
609	建築	大中臣神社 櫻門	福童	東内瀬	西福童	680	石造	本照寺 3 万塔	小坂井	屋敷	小坂井1
610	石造	大中臣神社 碑「櫻門改築記念」	福童	東内瀬	西福童	681	石造	本照寺 4 法華経塔	小坂井	屋敷	小坂井1
611	石造	大中臣神社 2 水盤	福童	東内瀬	西福童	682	建築	本照寺 5 境内社	小坂井	屋敷	小坂井1
612	石造	大中臣神社 3 水盤	福童	東内瀬	西福童	683	石造	本照寺 6 歴代住職墓	小坂井	屋敷	小坂井1
613	石造	大中臣神社 4 注連縄 一対	福童	東内瀬	西福童	684	石造	本照寺 7 万葉塔	小坂井	屋敷	小坂井1
614	石造	大中臣神社 5 犬伏 一対	福童	東内瀬	西福童	685	石造	本照寺 8 前頭 1 注連縄碑	小坂井	屋敷	小坂井1
615	石造	大中臣神社 6 注連縄 一対	福童	東内瀬	西福童	686	石造	本照寺 9 水盤	小坂井	屋敷	小坂井1
616	石造	大中臣神社 7 灯籠 一基	福童	東内瀬	西福童	687	石造	本照寺 10 碑「中央地口」	小坂井	屋敷	小坂井1
617	石造	大中臣神社 8 旗立石 一対	福童	東内瀬	西福童	688	建築	清正公さん	小坂井	屋敷	小坂井1
618	石造	大中臣神社 9 灯籠 一対	福童	東内瀬	西福童	689	石造	清正公さん 1 水盤	小坂井	屋敷	小坂井1
619	石造	大中臣神社 10 石槽	福童	東内瀬	西福童	690	石造	清正公さん 2 灯籠 一基	小坂井	屋敷	小坂井1
620	石造	大中臣神社 11 旗立て 一対	福童	東内瀬	西福童	690	石造	大和屋リーニング店地蔵菩薩坐像	小坂井	金山	小坂井2
621	石造	大中臣神社 12 灯籠 一対	福童	東内瀬	西福童	697	祭	東福童の水神祭り	福童	前堀	東福童
622	石造	大中臣神社 13 碑「天然記念物特等藤」	福童	東内瀬	西福童	698	他	福童町 神跡	福童	町	西福童
623	石造	大中臣神社 14 碑「宮改造記念碑」	福童	東内瀬	西福童	699	道	西内瀬の旧道	福童	—	西福童
624	石造	大中臣神社 15 雪見灯籠	福童	東内瀬	西福童	700	道	東福童の土手と旧道	福童	—	東福童
625	石造	大中臣神社 16 碑「神殿修理寄附」	福童	東内瀬	西福童	702	石造	日吉社 30 碑「記念碑 日吉神社社務所竣工」	小郡	下町	下町
626	石造	大中臣神社 17 碑「多宮記念同行三十二名」	福童	東内瀬	西福童	703	道	新彦山道	—	—	—
627	石造	大中臣神社 18 碑「參宮記念同行三十六名」	福童	東内瀬	西福童	704	道	旧彦山道	—	—	—
628	石造	大中臣神社 19 碑「奉納藤樹 本宮參宮記念」	福童	東内瀬	西福童	706	建築	横手橋	大崎	躑躅	大崎
629	石造	大中臣神社 20 碑「伊勢参宮記念」	福童	東内瀬	西福童	710	石造	碑「井手改修記念碑」	小坂井	和路瀬	小坂井1
630	石造	大中臣神社 21 碑「永富高古記念碑」	福童	東内瀬	西福童	711	石造	碑「井手改修記念碑」を解説する石碑	小坂井	和路瀬	小坂井1
631	石造	大中臣神社 22 碑「教育家之樹碑」	福童	東内瀬	西福童	712	石造	碑「耕地整理記碑」	小坂井	和路瀬	小坂井1
632	石造	大中臣神社 23 碑「耕地整理記念」	福童	東内瀬	西福童	713	石造	碑「石木道改築碑」	小坂井	和路瀬	小坂井1
633	石造	大中臣神社 24 碑「石垣記念 義村秋平」	福童	東内瀬	西福童	716	宝仙寺	—	小坂井	西口	小坂井1
634	石造	大中臣神社 25 碑「春香済石碑附七番義村秋平」	福童	東内瀬	西福童	717	樹木	西福童の竹林	福童	江剣	西福童
635	石造	大中臣神社 26 碑「石垣記念」	福童	東内瀬	西福童	718	石造	媛社神社前標	大崎	東	大崎
636	石造	大中臣神社 27 碑「義村秋平君碑」	福童	東内瀬	西福童	719	寺社	媛社神社	大崎	東	大崎
637	石造	大中臣神社 28 碑「梅樹碑」	福童	東内瀬	西福童	720	石造	媛社神社 神殿	大崎	東	大崎
638	石造	大中臣神社 29 玉垣	福童	東内瀬	西福童	721	石造	媛社神社 1 猫犬 一対	大崎	東	大崎
639	建築	大中臣神社 30 池と東堀	福童	東内瀬	西福童	722	石造	媛社神社 2 犬籠 一対	大崎	東	大崎
640	樹木	大中臣神社 ① 待草藤	福童	東内瀬	西福童	723	石造	媛社神社 3 犬籠 一対	大崎	東	大崎
641	樹木	大中臣神社 ② サクラ	福童	東内瀬	西福童	724	石造	媛社神社 4 鳥居	大崎	東	大崎
642	樹木	大中臣神社 ③ カイノキ	福童	東内瀬	西福童	725	石造	媛社神社 5 五連掛石 一対	大崎	東	大崎
643	樹木	大中臣神社 ④ その他の樹木	福童	東内瀬	西福童	726	石造	媛社神社 6 無病	大崎	東	大崎
645	風景	花立山達狹	大崎	—	大崎	727	石造	媛社神社 7 竜旗石 一対	大崎	東	大崎
646	建物	東札所	大崎	東	大崎	728	石造	媛社神社 8 五社号標	大崎	東	大崎
647	石造	東札所 1 十一面觀音坐像	大崎	東	大崎	729	石造	媛社神社 9 水盤	大崎	東	大崎
649	石造	東札所 2 弘法大师坐像	大崎	東	大崎	730	石造	媛社神社 10 碑「社務所竣工記念」	大崎	東	大崎
650	石造	東札所 3 水盤	大崎	東	大崎	731	石造	媛社神社 11 石碑	大崎	東	大崎
651	建築	中屋敷天満宮	大崎	中屋敷	大崎	732	石造	媛社神社 12 石段	大崎	東	大崎
652	木像	中屋敷天満宮 1 菩原道真公像	大崎	中屋敷	大崎	733	建築	媛社神社 13 天満神社	大崎	東	大崎
653	木像	中屋敷天満宮 2 神像	大崎	中屋敷	大崎	734	石造	媛社神社 14 玉垣	大崎	東	大崎
654	石造	中屋敷天滿宮 3 折れ手灯籠	大崎	中屋敷	大崎	735	石造	媛社神社 15 倒れた碑	大崎	東	大崎
655	建築	中全区（小瀬）札所	大崎	小瀬	大崎	736	石造	媛社神社 16 碑「社務所新築記念」	大崎	東	大崎
656	石造	中全区（小瀬）札所 1 線音菩薩坐像	大崎	小瀬	大崎	737	御殿	媛社神社 17 銅像「七夕物語」	大崎	東	大崎
657	石造	中全区（小瀬）札所 2 弘法大师坐像	大崎	小瀬	大崎	738	樹木	媛社神社 18 樹木	大崎	東	大崎
658	石造	中全区（小瀬）札所 3 灯籠竿竿	大崎	小瀬	大崎	739	祭	媛社神社 夏祭り	大崎	東	大崎
659	石造	中全区（小瀬）札所 4 灯籠	大崎	小瀬	大崎	740	風景	上・下町の街並み	小郡	—	—
660	建物	中嶋樂師堂 3 宝塔の一部	大崎	中嶋	大崎	747	水路	西福童区 水路	福童	—	西福童
661	石造	中嶋樂師堂 2 弘法大师坐像	大崎	中嶋	大崎	748	水路	西福童区 水路	福童	—	西福童
662	建物	補佐骨舟	大崎	中嶋	大崎	749	水路	大崎の道	小郡	—	新町
664	建物	後原不動堂	大崎	後原	大崎	742	道	福爾麻士道	寺福童	—	寺福童
665	風景	大崎滝ヶ元から見た高良山	大崎	滝ヶ元	大崎	743	水路	寺福童区 水路	寺福童	—	寺福童
666	建物	中嶋樂師堂	大崎	中嶋	大崎	744	道	東福童区 水路	福童	—	東福童
667	石造	中嶋樂師堂 1 藥師如来立像	大崎	中嶋	大崎	745	水路	東福童区 水路	福童	—	東福童
668	石造	中嶋樂師堂 2 弘法大师坐像	大崎	中嶋	大崎	746	道	西福童区 水路	福童	—	西福童
669	石造	中嶋樂師堂 3 宝塔の一部	大崎	中嶋	大崎	747	水路	西福童区 水路	福童	—	西福童
670	建物	小郡村消防道舎	大崎	五反田	大崎	748	道	大崎の道	大崎	—	大崎
671	建物	小坂井尻沙門天堂	小坂井	清水木	小坂井	749	水路	大崎区 水路	大崎	—	大崎
672	石造	小坂井尻沙門天堂 1 犬大 一対	小坂井	清水木	小坂井	750	道	小坂井 1-2 区道	小坂井	—	小坂井1:2
673	石造	小坂井尻沙門天堂 2 水盤	小坂井	清水木	小坂井	751	水路	小坂井 1-2 区 水路	小坂井	—	小坂井1:2
674	石造	小坂井尻沙門天堂 3 「天孫高八幡大神 建國之碑」	小坂井	清水木	小坂井	752	横隈街道	—	—	—	—
675	石造	小坂井尻沙門天堂 4 石神群	小坂井	清水木	小坂井	753	建築	新町の街並み	小郡	—	新町
677	建物	木照寺	木照	屋敷	木照	755	樹木	山滔池・柿池のサクラ並木	寺福童	通・勝	寺福童
678	石造	木照寺 1 門柱 一対	木照	屋敷	木照	756	石造	内半田のお堂	寺福童	内半田	間2
679	石造	木照寺 2 水盤	木照	屋敷	木照	757	建物	小郡中学校	寺福童	西池田	寺福童

カ一カード1 ~ 236は松崎宿の文化財につき欠番。

№237 ~ 762のうち、個人関係分等は掲載していない。

№763以降の埋蔵文化財(遺跡等)は省略。





① 埋蔵文化財 ～いにしえから続くわたしたちの歩み～

市内でも特に歴史が豊かな小郡校区ですが、中でも寺福童遺跡で見つかった約2000年前の弥生時代の銅戈埋納遺構は全国的に注目されています。大崎や小板井では古墳時代の集落が見つかり、下町から西福童にかけては中世の小郡の中心の一つでした。また、西福童・東福童での発掘調査では、古い字図と全く同じ場所で江戸時代の水路が見つかり、発掘調査と文書の記述が一致した貴重な例となりました。数千年前から現在まで歴史の流れが連綿と続いていることが実感できます。



発見！おごおりの宝

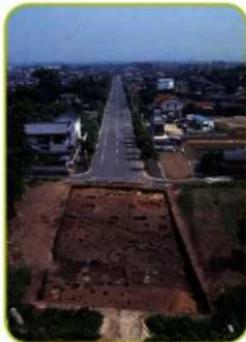
2004年6月18日、寺福童内烟堤の西側で弥生時代の宝物「銅戈」の埋納遺構が見つかりました。青銅器の埋納は人里離れた場所で行われることが多く、9本の銅戈が発掘調査で見つかることは非常に稀です。全国的に注目を浴びるこの埋納遺構は、遺跡から丸ごと切り取って持ち帰り、現在は埋蔵文化財調査センターで展示しています。

よみがえった弥生のかがやき

発掘調査で見つかった2000年以上前の銅戈は、長い期間土中に埋もれていましたので、サビが進んで弱くなった部分もありました。これらは室内で遺構から1本1本慎重に取り外し、その後奈良文化財研究所に持ち込んで保存のための処理を行いました。

現在銅戈は、埋蔵文化財調査センターの特別収蔵庫で大切に保管されていますが、平成26年春には特別なケースを用意し、展示する予定です。ぜひ一度地元の宝をご覧下さい。





道路の下には古代の生活が

七夕道路の下にはたくさんの遺跡が眠っています。中でも大崎小園遺跡では古墳時代を中心とした住居などが多く見つかりました。右の写真の四角い掘り込みは古墳時代初めの住居の跡です。大きさは一辺5.3m×3.7m程で、中からはたくさんの中器が出土しました。



見つかった畿内系の土器

大崎小園遺跡の住居や寺福童遺跡で見つかった方形周溝墓という古墳時代のお墓からは、近畿地方の影響を受けた土器が数多く見つかっています。この畿内系の土器（写真左）は、地元の土器（写真右）と比べると、とても薄く丁寧に作られています。今から約1700年前のこの地域に、近畿の政権と強い関係を持った集団がいたことが分かります。

②まつり～季節を告げる神社のまつり～

小郡校区内ではさまざまなまつりが行われています。内容は、みなさんが知っている七夕神社や祇園神社の夏祭りなど非常に大きなものから、地域のまつりまで様々です。先人から託された地域の象徴を、みんなで未来の子どもたちに引き継いでいます。



さらさら・・・みんなの願いを短冊に込めて

七夕神社の夏祭りには、全国から数多くの短冊が奉納されます。毎年8月6・7日のまつり当日には数万枚分の願いが境内に満ち溢れ、誰もが女神への思いを新たにします。この夏祭りは今から150年以上前の江戸時代の書物にも度々登場し、明治以降も佐賀や筑後地方からたくさん的人が訪れた様子が伝わっています。



子ども相撲で始まるヨドの夜

寺福童の福童神社では、毎年7月終わりから8月初めの土曜日に夏祭りが行われます。当日は、境内の土俵で子ども相撲が奉納されるなど、大人から子どもまでが一体となった地域の大なるおまつりです。



はっぴ姿がうれしくて

毎年7月の第4土・日曜日に行われる祇園祭は、疫払いの意味を持つ夏祭りです。現在は子供たちが太鼓を叩き、鉦を鳴らしながら下町の日吉神社まで山車を引いて往復します。まつりが近付くと子供たちが練習する太鼓の音が町中に鳴り響き、昔ながらの雰囲気を現在に伝えています。



年二回 こくぞう祭は なごやかに

計り知れない知恵と福德の持ち主で、人々に広く信仰される虚空蔵さん。日吉神社では、毎年1月と9月の13日に「こくぞう祭」が行われます。この日にもらった幸運種錢を財布に入れておけば一年中小遣いに苦労しないと言われ、次の祭日に倍にして供える風習が現在にも伝えられています。

③寺社　～心のよりどころ 地域とともに～

小郡校区には、古い歴史を持つ神社や寺が数多くあります。これらはいずれも、地域やそこに住む人々の心のよりどころとして大切に祀られてきました。信仰や歴史だけでなく、境内の緑でもみなさんを癒す数々の寺社を、今一度見つめなおしてみませんか。



小郡の繁栄を願って・・

小郡の総鎮守として人々の生活に密着してきた日吉神社。今から670年以前の南北朝時代に、鳥栖市重田・幡崎にある日吉神社と三社一緒に比叡山（滋賀県）麓の日吉大社から勧請されました。小郡の寺社と鳥栖の寺社には古くから強いつながりがありますが、その象徴とも言える神社です。当初は今よりやや西側にありましたが、江戸時代になって小郡町が繁栄を始めた1672年に現在地に遷されました。

日吉神社



十猿十色 神の使い

「神」という字には「申（さる）」が入っています。日本では古くから猿を山の神として捉え、全国の日吉神社では神の使いとして猿を祀っています。この神社の境内でもたくさん猿を見つけることができます。長い期間に渡って奉納され続ける猿は、地域のみなさんの強い思いを表しています。



町中でみんなを守る祇園さん

1353年に久留米市府中から勧請された祇園神社は、戦国時代に焼失しましたが、江戸時代前期の小郡町の整備の際に、町の鬼門の守りとして現在地へ遷宮されました。祭神は素盞鳴命で、疫病を取り除く神として広く祀られています。

祇園神社



あうんの呼吸で神社を守る

神社の境内には、八幡大神や大己貴神を祀る境内社とともに、狛犬・燈籠などの石造物が数多く見られます。写真的狛犬は江戸時代後期の1838年に造られたものです。今にも飛びかかろうとする姿が非常にユーモラスです。



いつもと違った視点から

左の写真は、祇園神社と小郡小学校を結ぶ歩道橋の上から撮ったものです。たくさんの緑の中に鳥居や本殿が見え隠れし、いつもと一味違った印象を与えます。



神社のシンボル 壮麗な楼門

嘉祐年間（1225～1226年）に創建されたと伝わる大中臣神社には、市内最大の楼門があります。周辺地域を見渡しても際立つ大きさのこの楼門は、江戸時代から明治時代にかけて大きく発展した端間港周辺の繁栄のようすを今に伝えています。

大中臣神社

親王を懐ぶ将軍藤

毎年盛大に開かれる藤まつり。この樹は、九州南北朝時代の主人公懷良親王のお手植えと伝えられています。後醍醐天皇の皇子でありながら、一生のほとんどを九州で過ごした懷良親王。咲き誇る藤の花を見ていると、その人生のハイライトと言える大保原合戦を終えた親王の心の安らぎが伝わってくるようです。



境内に隠れた灯籠

境内のほとんどの石造物は対になっていますが、写真的の灯籠は単独で存在しています。では、もう一つはどこにあるか分かりますか？実は、明治22年（1889）に造られた太鼓橋の支えに再利用されています。



媛社神社と姫古曾神社

七夕神社は正式名称を媛社神社と言い、奈良時代に書かれた『肥前国風土記』に「姫社の社」としてその名前が登場します。の中には当時からこの場所に女神が祀られていたことが書かれており、これと江戸時代中頃以降の七夕信仰が合わさって、七夕神社として広く信仰されるようになりました。右側の写真は、現在の鳥栖市姫方にある姫古曾神社です。1200年以上前の風土記の物語が現在によみがえり、地域のつながりと歴史の深さを感じすることができます。

媛社神社



二つの名を刻んだ鳥居

鳥居の扁額には「棚機神社 磐船神社」と書かれています。磐船神社とは古代の豪族物部氏が現在の大坂府交野市に創建した神社です。物部氏は、527年に起きた国を揺るがす大事件「磐井の乱」の後に北部九州で大きな勢力を持ちました。神社の名前一つを取っても、そこから地域の歴史が見えてきます。



年の初めに祈るのは・・

地元の方々から大事に守られてきた媛社神社では、現在でもさまざまなまつりが行われています。また、近年は「七夕神社」として有名になり、日本全国から参拝者が訪れるようになりました。写真是新年を迎えた神社のようです。毎年多くの人出で賑わいます。



紅葉も美しい福童神社

福童神社は、敷地内に寺福童区の公民館や児童公園があり、地域に密着しています。境内では毎月のように住民や子ども会によって清掃活動が行われています。春には咲き誇る桜の下で花見、夏まつりでは子ども相撲を奉納・・・ここでは、昔ながらの神社と地域の関係がそのまま残されています。

福童神社



風が通りぬける神殿

現存する神殿は、市内で最も古い神社建築の一つで、建てられたのは、江戸時代中頃から後半と考えられます。開かれた拝殿からはいつもと違う神社の風景を望めます。

平成に発見された神社の歴史

神社に残る古い木製の銘板に、祭神や年号が刻まれています。時代は室町時代末期の1557年で、記したのは善福寺（現在の禪福寺）の比丘です。たくさんの祭神の中央には「伊勢天照大神宮」の名前が刻まれています。





小郡町のあゆみと共に
浄土宗の寺院實相寺
は、江戸時代前期の1653
年に鳥栖市の西清寺から
勧請されました。開基
は、小郡町の発展に大き
く関わった田中宗易で
す。整然とした境内に
は、本堂が威風堂々とた
たずんでいます。



大檜那 田中宗易

左の写真は田中宗易の墓で
す。福島と博多との交易で財
を成した宗易は、久留米藩2
代藩主有馬忠頼の時に小郡町
の町立に大きく貢献しまし
た。檀那寺として實相寺を建
立した他、祇園神社の遷宮に
も関わりました。



實相寺



市内唯一の日蓮宗寺院

日蓮宗の寺院本照寺は、明治
22年（1889）に説教所として小
板井に開設され、明治27年
(1894)に本照寺となりま
した。境内には2基の万靈塔など多
くの石造物が祀られています。

本照寺



地名の由来と伝えられる禅福寺

曹洞宗の寺院禅福寺は、寺福童という地名の由来にもなった古い歴史を持つ寺院です。中世や戦国時代に戦火に遭いましたが、江戸時代後期に再興されました。周辺には大門口という地名が残り、往時は広大な寺域を誇ったと考えられます。境内には、高さ約3mの弘法大師像や江戸時代に建てられた一字一石塔などがあります。

禅福寺



應眞寺

風情たどよう境内

淨土真宗大谷派の寺院應眞寺は、室町時代の1518年に創建されました。古くから隣接する大中臣神社との関係が深く、ともに時代の流れを乗り越えてきました。現在の本堂は昭和4年（1929）に改築されたもので、境内には昭和51年（1976）の御本尊入仏及び梵鐘堂落慶記念碑も見られます。

④交通～人とものが行き交う場所～

西鉄天神大牟田線や国道500号線が走り、小郡市の交通の中心と言える小郡校区ですが、一昔前も宝満川の端間港の存在など、小郡の物流の中心地でした。校区内に残る明治から昭和の発展の足跡を今一度たどってみませんか。



役目を終え、今も残るホーム

国鉄甘木線筑後小郡駅は昭和14年（1939）9月に開設されました。昭和40年代までは周辺に建物もなく駅舎がよく目立っていましたが、周辺の宅地化が進み、レールバスの開通に合わせて現在地へ移転され、その役目を終えました。



昔の雰囲気を残す端間駅周辺

端間は宝満川の河岸に位置し、中世以降港町として大きく発展しました。特に、江戸時代から明治時代にかけては檍蠣の積み出し港として栄え、戦後まで料亭などを備えた地域の歓楽街としての機能を果たしました。その後、船による運搬は電車やトラックに取って代わりますが、現在の町並みにもかつての賑わいの名残りを留めています

⑤信仰～受け継がれるいのりの場～

江戸時代の雰囲気を色濃く残す小郡校区には、さまざまなかたちの祈りが存在しています。路傍のお堂の中や、各家々で祀られる石像などは、寺社へのお参りとは違うかたちで人々の生活に密着した“いのり”です。



日吉神社に遷っても

日吉神社の境内に恵比寿さんが2体並んで祀られています。いずれも元々は街道（現在の国道500号線）沿いにあったもので、向かって右側が下町の恵比寿像、左側が中町の恵比寿像です。写真の中町恵比寿像は線刻により恵比寿を表現したもので、平成18年に現在地に遷されました。恵比寿さんは商売繁盛の神で、市内でも宿場町や町屋で数多く祀られています。



浮かび上がる大寺院の姿

がらんさんとは、その名前から分かるように寺社に関係がある民間信仰です。小都市内では特に寺福童に多く見られ、その地名とともに往時の大寺院の存在を偲ばせます。現在は災厄除けの神として地域の人々に大切に祀られています



安らぎといのりを求めて

写真は大崎字小園にある辻堂で、三井川北四国八十八カ所巡りの一つでした。祀られているのは弘法大師像と觀音菩薩像です。敷地内の水盤には文化14年（1817）の銘があることから、少なくとも約200年に渡る信仰が続いてきたことが分かります。



觀音信仰と女性たちの集い

江戸時代に書かれた『寛延記』には、大崎に薬師辻堂と觀音辻堂があったことが記録されています。写真は字東にある辻堂で、堂内には十一面觀音像と弘法大師像が祀られています。水盤には「女講中」の銘が見られ、女性の信仰集団が存在していたことが分かります。この堂は女性の觀音信仰を表すとともに、集落の親睦の場としても機能していたことが想像されます。



集落で受け継がれる3つのお堂

東福童の旧道沿いに3つのお堂が並んでいます。北側の堂は毘沙門天と弘法大師が祀られ、中の堂は天満宮、南の観音堂では市内でも珍しい如意輪観音像が祀られています。江戸時代に書かれた『寛延記』には、天満宮・毘沙門天・地蔵の記録があり、古くから大事に守られてきたことが分かります。



通学路で子どもたちを見守るお地蔵さん

開1区の辻堂には2体のお地蔵さんが祀られています。お地蔵さんの正式名称は地蔵菩薩で、この世とあの世の境に立つことから、路傍や村境で多く見られます。また、子供を守る仏としても有名で、日本全国で広く信仰されています。



花と緑の中にお住まいのお地蔵さん

写真は小板井に祀られている地蔵菩薩像で、いつもきれ
いな花と緑に囲まれています。住民の方によると100年ほ
ど前から守られてきたとの話で、見ていると自然と手を合
わせてしまします。

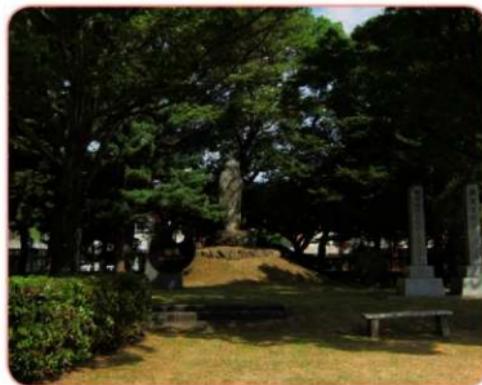


江戸時代の石祠と観音像

東福童の小さな祠の中に觀音菩薩像が安置されています。像は石
を浮き彫りし、左手には蓮の花を持っています。祠には200年以上
前の江戸時代の銘があり、とても長い間に渡って、大事に守られて
きたことが分かります。

⑥記念碑～先人の歩みを訪ねて～

小郡市内には、個人の功績を記念した石碑や、「大保原合戦」に関連する記念碑が数多く存在しています。中でも東町公園にある「大原古戦場碑」は、小郡市の記念碑を代表するものです。それぞれの碑に刻まれた文章からは、普段は語られない歴史を読み取ることができます。



大原古戦場碑と福童原古戦場

市役所横の東町公園にはたくさんの記念碑が建てられています。中でもその中心となるのは大保原（大原）合戦に関係する石碑と言えるでしょう。中央の大きな碑は合戦から550周年を記念したもので、その後600周年記念碑が建てられ、2009年には650周年記念碑も加わりました。一方、寺福童にも福童原古戦場を記念した石碑があり、市内の様々な場所で大保原（大原）合戦を偲ぶことができます。



伊吉櫟の開発者 内山伊吉

東町公園の記念碑の中に「内山伊吉之碑」があります。内山伊吉は、1730年に下町で生まれ、小郡町庄屋池内孫左衛門とともに櫟木の改良を重ね、「伊吉櫟」を作り上げました。「伊吉櫟」は毎年櫟実が収穫できて生産量が多い優良品種で、九州一円に苗木が出荷されました。小郡町は、櫟蠶隆盛の頃は「小郡銀」と称される程の富を築きました。

⑦道と水路～人々の旅と生活～

古くから交通の要衝として栄えた小郡校区には、数々の道が行き交っています。東西と南北に走る主要道から、地域の中の里道までその性格は様々です。さらに、小郡町周辺には江戸時代の土地区画にも利用された水路が縱横に残り、300年以上前の人々の生活を感じることができます。



小郡を東西に走る古道

17世紀後半に松崎宿が成立して以降、彦山道は田代一小郡一
大崎一稲吉一下岩田一松崎というルートが中心になりました。

現在の小郡小学校正門前の別れ道は当時のままの姿を残し、こ
れを南東に進むと、媛社神社を通ってそのまま一本道で松崎宿
にたどり着きます。

田園を縫うあぜ道に心も開ける

中世から江戸時代前期まで主
要道だった横隈街道は、宝満川
の西側を南北に走っています。
市内には現在でもそのルートを
確認できる場所が多く残されて
おり、特に媛社神社から小板井
にかけてのあぜ道は当時の雰囲
気を感じることができます。





今も地域の主要道

江戸時代には、小郡町の祇園神社付近から出発して基山町で長崎街道に合流する道を博多道と呼んでいました。小郡駅前は区画整理でルートが分からぬ部分もありますが、近年の発掘調査でその一部が確認されています。

生活の中に隠れた古道

大保道は小郡町を出て、現在の大原小学校付近で横隈街道に合流します。この道は非常によく残されており、江戸時代から変わらないルートを毎日たくさんの人々が行き交っています。



小郡の発展を支えた櫓の道

江戸時代当時の地図に載らないような村中の道にも、現在までそのまま残されているものが数多くあります。写真は中でも重要な新町沿いの道で、小郡町で作られた櫓蠅はこの道を通って端間港へ運ばれました。

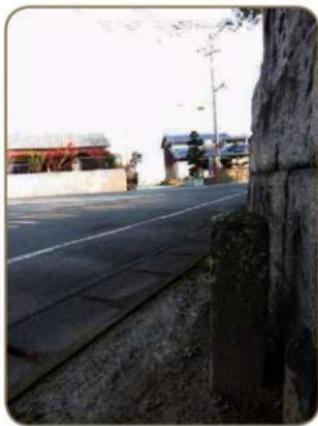


道路拡幅のモニュメント

流通センター入口交差点に立つ県境標です。本来は250m西側の佐賀県境にありましたでしたが、平成15年に現在地に移されました。建てられたのは、大刀洗飛行場の完成に伴って現在の国道500号線が軍用道路として拡幅された大正8年（1919）頃と考えられます。

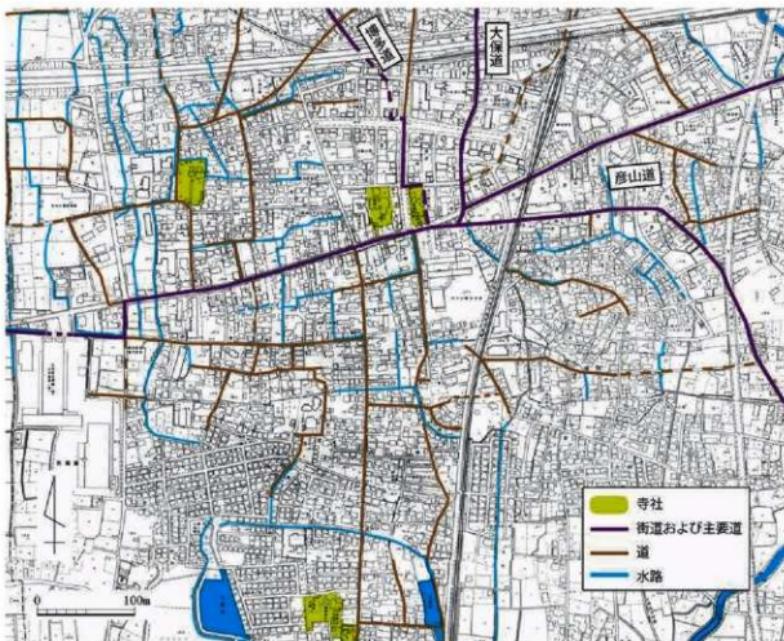
別れ道に立つ小さな道標

媛社（七夕）神社の前にある小さな道標です。これにも「飛行場」の名前があることから、大刀洗飛行場ができた大正8年（1919）以降に建てられたことが分かります。下の中町道標と同じく、小郡村青年団による建立です。



旅人の道先案内

小郡自衛隊入口交差点の角に立っている道標です。「大原古戦場東八丁」の文字や、→とともに「大板井 松崎 飛行場」「甘木三里 大保 稲吉」「田代」といった多くの地名が出ています。→の方向から考えると、もともとは180度逆向きに据えられていたようです。



江戸時代から続く小郡町周辺の道と水路



まちを守り、生活に活かす

小郡校区には、江戸時代から続く水路が数多く残されています。土地を区画するための水路、水を低地に運ぶための水路などその性格は様々ですが、いずれも地域の一大工事だったことは間違いありません。上町・中町・下町・新町周辺では、東西南北に規則正しい水路が目立ちます。これは江戸時代前期に小郡町がつくられた時に掘られた水路で、町屋と畠、さらにはその背後に広がる水田地帯とを区画する意味があります。つまり、小郡町は二重の水路に囲まれた町として成立しました。

実りへの苦労を秘めた二つのため池

寺福童に南北に並ぶ山添池（写真上）と柿添池（写真下）。江戸時代に地域の水不足解消のために造られたこのため池には、現在でも基山町野口から水路を通って秋光川の水が流れ込んでいます。江戸時代当時、小郡・寺福童・福童周辺で農業を営むには、この秋光川からの水が不可欠で、度々水争いも起きました。春には桜が咲き誇るこの池にも、いつも語られない長い歴史があります。



みんなの村を守るために

小郡校区は、江戸時代の17世紀末頃には久留米藩領（小郡村など）と天領（寺福童村など）に分かれていました。これに豆田井手（灌漑用の堰）を持つ対馬藩領野口村を合わせて、元禄3年（1690）に大きな水争いが起きました。この水争いに関しては詳細な記録が残されており、当時の地域社会のようすや開墾の状況など、300年以上昔の様々な情報を現在に伝えています。

⑧その他 ～どこか懐かしいものたち～

みなさんが暮らすすぐそばには、ほんの少し前まで私たちの生活を支えてくれていたものがたくさん存在しています。これらは昭和という時代の生き証人として、今後ますます重要ななるでしょう。



丸型ポストは人気のスタイル

寺福童にある現在は珍しくなった丸型底付郵便ポスト。市内でもほとんどのポストが角型に変わった中、現役で使用されています。集配は1日1回。あざやかな赤が目を引きます。

夏は涼しいお散歩コース

甘木鉄道の大板井周辺は平成15年12月に高架になりました。現在はこの高架の下が通路となって、多くの人の行き来が見られます。この通路の両側の押さえには線路の枕木が再利用され、往時の姿を思い起させます。



使命を終えて、今はのんびり

協和病院の車庫にナンバープレートが外されて廃車になった車が停まっています。これは昭和44年に購入されたドイツ製の救急車で、急病人を迎えに行ったり、患者を転院搬送する際に使用していました。とても珍しい車で、これまでにも新聞やテレビで取り上げられました。

⑨風景 ～やさしくふるさとを包む～

小郡校区には、見ているだけで心が洗われる風景がたくさん残されています。数百年前に暮らした先人も、きっと同じ気持ちを抱いたことでしょう。



田園の彼方に花立山
媛社（七夕）神社
から北側に延びる横
隈街道から見た花立
山。いつまでも変わ
らぬ雄姿を私たちに
見せてくれます。



木漏れ日はおだやかに
西福童の佐賀県との
県境付近にある竹林。
周辺には中世から続く
と考えられる道もその
まま残されています。
往時の雰囲気を感じる
ことができる風景です。

(4)まとめ

今回実施した小郡校区の調査では、約540件の文化遺産をカード化し、登録しました。ここでは、今年1年間の調査のまとめとして、校区内14区のそれぞれの文化遺産の状況を表にしました。なお、今報告書では、町屋や宅地内の祠など個人の方が所有されている文化遺産は掲載していません。これに関しては今後調整を進め、平成27年度に予定している全体報告書の中まとめてみたいと考えています。

最後に、今回の現地調査では各区長さんを始め、数多くの住民の方々から直接お話しを伺う機会をいたきました。ご協力に心から感謝するとともに、この調査成果が少しでも今後のまちづくりに活かせるものになっていればと祈念してまとめの言葉とします。

《東町区》

項目	内容
キャッチフレーズ	彦山道とともに～見守り続けた小郡の発展～
特徴	近世以降の主要道彦山道。これに沿う東町公園内の各記念碑や現存する旧小郡村役場は、小郡の発展を見守ってきた証人と言える。
主な文化遺産	大原古戦場碑(360)、旧小郡村役場(井手運送)(386)、彦山道(704)、小板井京塚遺跡出土縁軸陶器(774)

《上町区》

項目	内容
キャッチフレーズ	町のくらしと心を支える～祇園神社と實相寺～
特徴	小郡の町のあゆみに不可欠な祇園神社と實相寺が存在。通り沿いには町屋も残り、江戸時代の小郡町の繁栄を感じさせる地域である。
主な文化遺産	祇園神社関係(284～326)、實相寺関係(327～349)、田中三次郎商店(425)、協和病院の救急車(426)

《中町区》

項目	内容
キャッチフレーズ	江戸時代のまちづくり～目に見える江戸の地割り～
特徴	江戸時代に整備された小郡町の中心部で、南北に長い土地の区画がそのまま残る。町屋と背後の畠を区別する水路も残りが良い。
主な文化遺産	日吉神社恵比寿像(270)、中町道標(427)、中町辻堂(431)、中町区水路(456)

《下町区》

項目	内容
キャッチフレーズ	先人の祈りと努力がそこに～日吉神社と水路群～
特徴	小郡總鎮守日吉神社では様々な祭りや石造物が守られ、地域内を縱横に走る水路は江戸時代からそのままの姿を保っている。
主な文化遺産	日吉神社関係(237～283、433)、県界標(447)、さとう別荘(450)、下町区水路(458)

《新町区》

項目	内容
キャッチフレーズ	今に残る江戸の町なみ ～貴重な町屋は未来へのかけはし～
特徴	南北に走る通り沿いには町屋が数多く存在し、江戸時代の人々のくらしを想像させる。小道も当時の道幅のまま残されている。
主な文化遺産	新町区道(405)、新町区水路(406)、新町恵比寿像(410)、たくさんのお町屋

《駅前区》

項目	内容
キャッチフレーズ	博多道のいまむかし ～発掘された近世の道路～
特徴	江戸時代当時地域の主要道だった博多道が、今までそのままの雰囲気で残る。駅前の開発に伴う発掘調査でも確認された。
主な文化遺産	駅前区水路(352)、北浦のお堂(353)、旧国鉄甘木線筑後小郡駅(355)、博多道(417：小郡博多道跡)

《開1区》

項目	内容
キャッチフレーズ	近世のいのりのかたち ～くらしを守るお地蔵さん～
特徴	新町から続く通り沿いにお堂や恵比寿像が祀られる。江戸時代以降のくらしに密着した人々のいのりの姿を感じる。
主な文化遺産	開1・2区道(392)、開畠道東辻堂(396)、西町口辻堂(399)、北町口恵比寿像(400)

《開2区》

項目	内容
キャッチフレーズ	団地の中を流れる努力の結晶 ～小郡の農業発展の礎～
特徴	新興団地八重洲グリーンハイツの中には南の山添池・柿添池に続く江戸時代以来の重要な水路が通る。
主な文化遺産	開1・2区道(392)、開1・2区水路(393) 内牟田のお堂(756)

《寺福童区》

項目	内容
キャッチフレーズ	文化遺産の宝庫 ～悠久の歴史を支える台地～
特徴	福童神社、禪福寺、がらんさんなど挙げればきりがない程の文化遺産の宝庫。山添・柿添の両ため池も地域の歴史を物語る。
主な文化遺産	福童神社関係(462、489～506)、禪福寺関係(463、507～540)、福童原古戦場(477～484)、がらんさん(461)、寺福童銅戈(770)

《西福童区》

項目	内容
キャッチフレーズ	中世のくらしといのり ～將軍幕をまつた人々～
特徴	中世から続く町なみが残る市内でも重要な地域。將軍幕の伝承とともに、地域全体が歴史あるたたずまいを見せる。
主な文化遺産	應眞寺関係(589～606)、大中臣神社関係(607～643)、西内畠地蔵堂(547～550)

《東福童区》

項目	内容
キャッチフレーズ	小郡の繁栄を支えた港 ～流通拠点端間港と福童～
特徴	近世小郡の繁栄を支えた端間港を持つ。大中臣神社や應眞寺への信仰はもちろん、現在でも路傍や家々でのいのりが守られている。
主な文化遺産	端間港の繁栄(561・562)、内畠北石祠(567)、内畠辻堂(570～577)

《大崎区》

項目	内容
キャッチフレーズ	文化のクロスロード ～女神が見守る交流～
特徴	南北に走る横隈街道と東西に走る彦山道が媛社神社前で交差する。弥生時代以降の遺跡も多く、常に歴史の表舞台に登場。
主な文化遺産	媛社神社関係(719～739)、彦山道(703)、横隈街道(752)、大崎小国遺跡出土畿内系土器(780)

《小板井1区》

項目	内容
キャッチフレーズ	途切れることのないあゆみ ～2000年のくらしが足元に～
特徴	築地川西側の台地上には、弥生時代から江戸時代までの遺跡がところ狭しと広がる。
主な文化遺産	本照寺関係(677～687)、清正公さん(688～690)、小板井地区の遺跡群

《小板井2区》

項目	内容
キャッチフレーズ	街道沿いのくらし ～一步足を踏み出すと～
特徴	彦山道とそこから南北に延びる小道が残る。入り組んだ路地は、一昔前の雰囲気をそのまま現在に伝える。
主な文化遺産	毘沙門天堂(671～675)、地蔵菩薩坐像(696)、小板井1・2区道(750)

報告書抄録

ふりがな	おごおりしないぶんかいさんさいはつけんほうこくしょ
書名	小郡市内文化遺産再発見報告書
副書名	福岡県小郡市小郡校区の文化遺産
巻次	1
シリーズ名	小郡市文化財調査報告書
シリーズ番号	第275集
編著者名	杉本岳史
編集機関	小郡市教育委員会
所在地	〒838-0198 福岡県小郡市小郡255-1 ☎0942-72-2111
発刊年月日	2013年3月31日
要約	<p>本書は、平成24年度に実施した小郡市内文化遺産再発見事業の報告書である。当事業は4ヶ年で実施する予定で、平成24年度はその1年目として小郡校区の悉皆調査を実施した。その結果、校区内の至るところに近世の道や水路がそのまま残されており、特に17世紀中頃の小郡町の町立の様子を現在の町並みからも十分読み取れることが分かった。また、福童や大崎地区を中心として路傍のお堂や各家々での信仰の形態が色濃く残されていることが分かり、道の一部は中世に遡ることとも考えられる。この悉皆調査は今後も引き続き実施し、市内各地域の歴史的特徴を抽出することを目指す。</p>

小郡市内文化遺産再発見報告書 1

—福岡県小郡市小郡校区の文化遺産—

小郡市文化財調査報告書

第275集

2013年3月31日

発行 小郡市教育委員会

福岡県小郡市小郡255-1

印刷 片山印刷（有）

福岡県小郡市紙園1-8-15

